

第 6 学年 社会科学習指導案

【本時の主張】

歴史の学習で、人々の働きを理解するために、当時の人々の目線で考えることは重要である。そのために、当時の時代背景や人物が抱えていることを考えることが重要になる。

そこで、本時では、中心となる資料（給食風景の写真）に体験活動（脱脂粉乳の試飲）を組み合わせ、さらに、補助となる時代背景の資料（瓦礫を歩く少年）を提示することで、時代背景も考えて資料を読み取ったり思考したりする学習をつくっていく。

1 単元名 平和で豊かな暮らしを目ざして

2 単元の目標

- 終戦時の人々の暮らしや戦後の発展を調べ、人々の生活の様子や発展の要因について考えることを通して、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上していったことをとらえる。

3 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用の 技能・表現	社会的事象に ついての知識・理解
○ 戦後の発展に関心をもち、発展の要因を意欲的に調べ考えようとする。	○ 終戦当時の人々の様子や戦後の発展の要因を、資料をもとに考えている。	○ 終戦当時の子どもの暮らしや戦後の様々な改革について、写真やグラフなどの資料から調べている。	○ 日本国憲法の制定や戦後の様々な改革を経て、民主的な国家として出発し、国民生活が向上したことが分かる。

4 単元について

(1) 学習指導要領で該当する部分

【新学習指導要領】〔第 6 学年〕 2 内容

- (1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的な背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。
- ケ 日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること。

本単元の範囲を考慮しながら、内容を整理する。

理解させること	調べる具体的な事象
戦後我が国は民主的な国家として出発	日本国憲法の制定
国民生活が向上し	
国際社会の中で重要な役割を果たしてきた	オリンピックの開催など

(2) この時代のとらえ

日本は 15 年に及ぶ戦争で、国内外で多くの犠牲を払い、苦しい生活に耐え、原爆の投下を経て

終戦を迎えた。敗戦という絶望的な状況，明日食べる物にも苦勞する物不足の中から，民主的な国家として出発した日本は，驚異的な発展を遂げ，20年足らずでオリンピックを開催するまでに成長を遂げる。

この要因は何だったのか。民主的で平和的な憲法が人々に希望を与えたことやアメリカをはじめとする他国の援助がある。また，苦しい中でも助け合いながら乗り越えてきた先人の努力がある。

(3) 子どもの視点からの戦後

太平洋戦争をはじめとする戦争の学習では，歴史的な事件や出来事を追うあまり，政治についての学習が多くなりがちになる。また，戦争の悲惨さや苦しさを子どもに伝えることが難しい。

そこで，本単元では戦争の悲惨さを身近なこととして考えさせようと考え，子どもの視点で，戦争や戦後の時代を見て，追求させていくこととした。当時の子ども（歴史事象）を，今の子どもたちが，子どもという同じ視点でとらえさせていくことで，歴史の中の事件が遠い世界のことでなく，身近な世界のことであることに気付かせていく。

『小学社会6年上』（教育出版）では，右のように，子どもの視点で，戦争や戦後を学習できる資料が多く見られる。例えば，子どもが多く出ている写真資料，学校の授業風景，学校給食，男女共学，墨塗り教科書などがある。これらの資料を有効に活用していく。

子どもの視点でとらえる資料

p102-103 「戦争中の子どもの暮らし」

- ・「校門前の兵士に敬礼する小学生」の写真
- ・「青い目の人形」
- ・戦争中の教科書の実物写真

P108-109

- ・『『青空教室』で学ぶ子どもたち』の写真
- ・両親の遺骨を抱いて満州から引き上げる子どもの写真
- ・戦前，終戦時，現代の小学6年生の平均身長と比較
(平成22年度版「小学社会6年上」教育出版)

5 児童について

(1) 歴史の授業について

「社会科は好きか」という質問には，全体の3分の1の子どもが「好き」と答えた。その理由としては，「歴史人物の活躍がおもしろいから」が最も多かった。知識理解の定着のために，歴史カルタを授業の最初に取り入れている。これを楽しみにしている子どもが多く，家庭学習でそれに取り組んでいる子どももいる。

(2) 思考（考える）ことについて

授業のまとめを書かせると，「……が分かりました」「……ということを初めてを知りました」と，知識についての記述が多く，友達の考えを聞いてどう思ったか，自分とはどう思うのかなどの記述が少ないという現状である。

また，これらの理由を話す際に，資料や既習事項を根拠として取り上げることを苦手とする子どもが多い。

資料の読み取りについても，描かれたこと，書かれたことについて表面的な部分だけを読み取る「浅い」ものになりがちである。例えば，黒船来航の際に，「ペリーが開国を要求しても鎖国を続けなければいい」と考える子どもが多かった。これは，「鎖国を強要すれば武力行使もありうる」「戦争になった場合には，日本は勝てる見込みが少ない」などの時代背景についての知識が不足していたり，そのような背景を見抜こうとする姿勢が少なかったりすることに起因していると考えられる。

歴史の学習で，当時の人々の働きを理解するためには，現代の私たちの視点ではなく，当時の人々の目線で考えることが重要である。そのために，当時の時代背景はどのようなものだったのか。写真に写っている人が抱えているものは何かを「想像」することが極めて重要になってくる。

6 単元の構想

(1) 子どもの笑顔の裏にあるものは？（第1～2時）

最初に，当時の食糧事情の厳しさに焦点を当てる。ララ物資として供給された脱脂粉乳を提供された学校給食を題材として扱う。現代の子どもには決して「おいしい」とは言えない脱脂粉乳を笑顔で飲む教室風景に，子どもは驚くと考えられる。しかし，その背景には，戦争が終わってもなお続く食糧不足がある。また，戦争が終わり平和な時代の到来を喜ぶ気持ちもある。

さらに、子どもの生活を中心に学習を広げていく。戦後「青空教室」で学ぶ子どもの写真（『青空教室』で学ぶ子どもたち」教科書 p 108）を見せて、「分かったこと、気付いたこと、思ったこと」を発表させる。明るく楽しそうに学習している様子が印象的である。しかし、写真の詳細に注目すれば、そこは外であり、背景には瓦礫の山が見える。終戦直後の苦肉の策として行われた特設の「学校」であることが分かる。

そこで、写真を見せて、「この子どもたちは本当に明るく楽しい気持ちで学習しているのか」を考えさせる。戦争で家族を失った子どもがいるし、家を焼かれた子どももいる。家族を亡くした子どももいるだろう。一方で戦争が終わり、空襲などの恐怖に怯える必要がなくなり、明るく前向きな気持ちから表出された笑顔であるとも考えられる。そう考えると、「明るく楽しそう」に見える笑顔には、様々な意味があることに気付く。

子どもに考えさせる際には、考えと資料を結び付けさせて、事実を根拠として考えさせるようにする。両親の遺骨を抱いて満州から引き上げてきた子どもたちの写真から、親を戦争で失った子どもが多かったことが分かる。太平洋戦争の戦死者数からは、家族を亡くした子どもの多さを想像することは容易である。

(2) 民主的な改革、国民生活の向上（第 3～4 時）

戦後の日本の発展について、資料を調べながらまとめていく。まずは、民主的な国家としてスタートしたこととして、「男女平等になる」「女性に選挙権が保障される」など、民主的な改革が行われたことを学習する。また、日本国憲法が制定され、戦争をしないこと、基本的な人権の尊重が掲げられたことを押さえる。

昭和 30～40 年代では、国民生活が大幅に向上したことも学習していく。「電気製品の普及」を占めるグラフを読み取ることから、電気洗濯機、電気冷蔵庫、カラーテレビが急速に普及して、国民生活がどんどん豊かになったことに気付かせる。この時代は、祖父母などに聞き取り調査をしながら、「新しい電化製品が来たときはどうだったか」を調べさせる。

(3) 戦後の発展の要因は何か（第 5～6 時）

昭和 39 年に東京オリンピックが開催され、日本はアメリカに次ぐ世界第 2 位の工業国に発展した。わずか 30 数年での実現は驚異的と言える。その要因になったものは何かを考えさせる。

まずは、「戦争をしない」と決めたことや民主的な改革が挙げられる。また、日本国民の勤勉さや協力が背景にある。単元の最初で学習した「終戦時の気持ち」を理由にする子どももいるだろう。さらには、大仏づくりや鉄砲作りなどのモノづくりの技能の高さも考えられる。

これらの意見を交流させながら、戦後はどのような時代であったかを振り返り、整理させる。次の時間には、同じテーマで意見文を書かせる。意見、その理由、その理由を支える資料や歴史的事実（＝根拠）をあげながらまとめさせる。国語の意見文を書く単元と関連させながらまとめさせていく。

7 指導計画（全6時間 本時第1時）

	指導内容	評価規準	・留意点
1 本時	○ 脱脂粉乳を飲む体験や当時の給食風景の写真資料の読み取りを通して、当時の食糧事情の厳しさを理解させる。	【思】当時の食糧事情などの生活の厳しさについてとらえている。(発言, ノート)	・当時の学校給食の様子を理解させるために、脱脂粉乳を試飲する体験を準備する。
2	○ 「青空教室」の多くの子どもは笑顔であることから、この当時の子どもは明るく楽しい気持ちで学校に行っていたかどうかを考えさせる。 ○ 自分の考えの理由を確かめるために、終戦当時の子どもの暮らしを調べさせる。	【意】終戦当時の子どもの暮らしに関心を持ち調べていこうとしている。(学習の様子, ノート) 【技】終戦当時の子どもの暮らしについて、調べている。(発言, ノート)	・写真資料『『青空教室』で学ぶ子どもたち』教科書(p.108)
3	○ 平和憲法の制定をはじめ、戦後の様々な民主的な改革を調べ、日本が民主的な国家として新しく出発したことを理解させる。	【技】戦後の様々な改革について、調べてまとめている。(ノート) 【知】平和憲法の制定や戦後の様々な民主的な改革について理解している。(発言, ノート)	
4	○ 「電気製品の普及」のグラフの読み取りを通して、国民の生活が急激に向上したことに気付かせる。 ○ 戦後から高度経済成長期の生活の変化を調べさせる。	【意】戦後から高度経済成長期の生活の変化を進んで調べまとめている。(学習の様子, ノート) 【技】「電気製品の普及」のグラフを正確に読み取っている。(発言, ノート) 【知】電化製品の普及、新幹線の開通、オリンピック開催など、戦後の経済的な発展について理解している。(発言, ノート)	・戦後から高度経済成長期の生活の変化について家族への聞き取り調査を勧める。
5	○ 戦後から今日までの日本の発展の要因を調べ考えさせることを通して、民主的な政策や平和の重要性、人々の努力などについて整理させる。	【思】戦後の発展の要因について資料を使いながら説明している。(発言, ノート) 【意】戦後の発展に関心を持ち、その要因を意欲的に調べ、話し合っている。(学習の様子, ノート)	・ここまでの学習を想起させながら話し合う時間をつくる。

6	○ 戦後から今日までの日本の発展について意見文を書かせる。	【技】学習したことを基に、自分の考えを意見文にまとめている。(意見文)	・国語の意見文の学習を生かして、考え、理由、根拠となる資料が分かるように書かせる。
---	-------------------------------	-------------------------------------	---

8 本時の計画

(1) 本時のねらい

脱脂粉乳を飲む体験や当時の給食風景の写真資料の読み取りをとおして、当時の食糧事情の厳しさを理解することができる。

(2) 指導の構想

① 戦後の教室風景の写真の読み取り<導入>

授業の最初に、当時の給食風景の写真を提示して写真を読み取らせる。(写真は省略)。自分たちと同じくらいの年齢の子どもの食事風景には興味をもつであろう。写真には、食缶に入った脱脂粉乳を女子が男子に配っている様子が映っており、一目で、学校給食で出されている飲み物であることが分かる。さらによく見ると、食べ物はパンだけであり、かなり質素である。子どもの服装や髪形、教室の様子なども読み取れる。そして、ここで一番印象的なのは、子どもの溢れんばかりの笑顔である。脱脂粉乳を注ぐ女子、もらう男子はもちろん、周囲の子どもも笑顔である。

② 脱脂粉乳を飲む体験活動<追求>

あふれんばかりの笑顔から、子どもは「脱脂粉乳はおいしい」と予想する。そこで、実際に飲んでみる活動を入れる。当時の脱脂粉乳よりかなり飲みやすくなっているとはいえ、子どもにとって匂いや味は馴染みがなく、苦手とする子どもが多いはずである。さらに、当時を体験した方の話から、おいしくなかったことを伝えてもらう。

すると、子どもは、先程の給食風景の写真と脱脂粉乳の味を重ね合わせ、「どうして笑顔でうれしそうに飲んでいるのか」という疑問をもつ。そこで、次に、この理由を考えていく。

ア 既習事項と結び付ける

戦時中に食べ物がない苦勞したと結び付ければ、「お腹がすいていたから、うれしかった」「今まで食べ物がなかったから、少しでも食事ができることがうれしかった」と考えるであろう。

さらに、戦争が終わり平和な時代が訪れたという大きな変化をとらえれば、「戦争が終わり学校に通うことができうれしかった」「平和になり空襲に怯えずに勉強できることがうれしかった」と考えると予想される。

イ 新たな資料(=時代背景が分かる資料)を提示する

壁にぶつかって新たな考えに至らない場合には、新しい資料を基に考えさせる。教科書資料であるので、子どもが見付けて根拠とすることが望ましいが、子どもから出ない場合には、教師から提示する。

教科書の「瓦礫の中を通う子ども」の写真や、「亡くなった父母の遺骨をもって満州から帰国した女の子」の写真を提示する。当時の時代背景が読み取れる資料である。給食中の笑顔の子どもは、家が焼かれ住むところに困っているかもしれない。また、親が戦争で亡くなり、家族がいないかもしれない。そのような状況を抱えて学校に来ていることを合わせて考えさせる。

次に、当時と現在の平均身長の変り変わりの表を提示する。これを見ると、戦後の平均身長が低く、現在が高いことから、当時の栄養状態の悪さから、食糧事情の厳しさと結び付けていかせる。ここで扱う「食糧事情の厳しさ」とは、3回の食事を十分にとれない、明日食べる物がなくて困る状態を指している。

<表>「6年生の平均身長」

	1937年	1946年	2001年
男子	134.7 cm	129.9 cm	145.3 cm
女子	136.6 cm	130.0 cm	147.1 cm

このように、脱脂粉乳を飲み「どうして笑顔でうれしそうに飲んでいるのか」を考えさ

	<ul style="list-style-type: none"> ・瓦礫の中を歩いて登校している子どもの写真がある。戦争が終わっても大変な状況が続いているから、わずかでも食べ物があることは、ありがたいことなのだろう。 ・当時の小学生の平均身長を見ると、今に比べてとても低い。食べ物があまりなかったに違いない。だから、脱脂粉乳が飲めることは、すごくうれしいことだったはずだ。 	<p>【資料】がれきの中を登校する子ども（教科書 p 109）</p> <p>【資料】6年生の平均身長（教科書 p 109）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもから出なかった場合には、「これをもとにして考えてみては？」と、教師から新たな資料を提示する。 ・時間があれば、「脱脂粉乳の代金はいくらか？」「食料がない時代に、だれが提供してくれたか？」も考えさせる。
<p>まとめ 10分</p>	<p>○ 今日学習したことについての考えを書きなさい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争が終わったけども、まだまだ食べ物は恵まれていなかった。(B) ・平和な時代になっても、まだ苦しい生活は続いていた。 ・あまりおいしくなかった脱脂粉乳をおいしく飲んでいるから、それだけ食べ物に困っていた。(B) ・戦争が終わっても苦しい生活は続いていた。脱脂粉乳でさえもありがたかった。(B) ・○○さんが言っていたように、戦時中は疎開で食べ物がなかったのだから、わずかな食べ物でもありがたかったと思う。(A) ・焼け跡の中でも、がんばって学校に行っているのだから、少しの食べ物でもありがたいと思ったのだろう。(A) ・平均身長がこんなに低いということは、栄養があまりとれなくて、お腹がすいていたんだと思う。 	<p>【評価規準】【思】 左の文例を参照 (B) 当時の食糧事情などの生活の苦しさについてまとめている。 (A) (B)の内容に加え、友達の意見や資料を引用しながら自分の意見をまとめている。</p> <p>【方法】ノート、発言</p>